研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号: 12501

研究種目: 基盤研究(C)(特設分野研究)

研究期間: 2017~2022 課題番号: 17KT0134

研究課題名(和文)相互行為における複様式的知覚と共感的反応の解明 会話分析と概念分析をとおして

研究課題名(英文)Multisensory Perceptions and Affiliative Responses in Interaction

研究代表者

西阪 仰(Nishizaka, Aug)

千葉大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号:80208173

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3.600.000円

研究成果の概要(和文):心理学では,錯覚研究において,異なる様式の知覚が相互に影響しあうことが研究されている.一方,哲学では,とくに現象学において,「ガラスの硬さを見る」というような「共感覚」の重要性が,指摘されてきた.共感覚的現象は,実際に触れていなくても,触覚的状態(硬さ)を見るという,異なる知覚様式の相互影響とは異なる現象である.さらに,同じものを見ていても,(だまし絵のように)それが多様な見え方を許容することがある.本研究では,このような多様な知覚のあり方が,実際の活動のなかで,特定の行為の構成成分として組織されることを,会話分析の方法を用いて明らかにした.

研究成果の学術的意義や社会的意義本研究は,複様式知覚について,実験という方法を用いるのではなく,私たちが日々実際に営む相互行為をビデオにとり,その相互行為のなかでそのような知覚がどう達成されあるいは何を達成しているのかを,体系的に考察した最初の経験的研究である.このような経験的研究の蓄積は,例えば,教育や教示の場面において,より効率的な学習を促すのに資するかもしれない.しかし,もっと重要なことは次の点にある.私たちは,人を知覚するとき,最初に言葉を聞き振舞いを見て,そこからその人を人として判断しているわけではなく,最初から人として端的に把握している.このことの倫理的帰結を考えることが,次の課題となろう.

研究成果の概要(英文): There have been a substantial number of psychological studies of cross-modal perception. They mainly focus on the mutual influences between different modalities of perception. In philosophy, phenomenologists have pointed out the importance of "synesthesia" such as hearing the rigidity of glass (without touching it). Furthermore, while seeing the same object, one may see it differently (as when seeing a trompe I'oeil; cf. Wittgenstein on "aspect seeing"). This research project has analyzed the video recordings of various naturally occurring interactions, using conversation analysis as the methodology, and showed that various multimodal perceptions are organized as constituent parts of specific actions in distinct activities. The result has implications for the organization of various instructions (such as instructions on how to see things appropriately) and, moreover, for the ethical issue of the perception of human beings.

研究分野: 社会学

キーワード: 会話分析 概念分析 相互行為 アスペクト知覚 複合感覚 ウィトゲンシュタイン 行為 活動

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1.研究開始当初の背景

心理学では,錯覚研究において,異なる様式の知覚が相互に影響しあうことが研究されていた.口の形状が発音された音の聞き方に与える影響,光の見え方が音の聞こえ方に与える影響などが盛んに研究されていた.一方,哲学では,とくに現象学において,「ガラスの硬さを見る」というような「共感覚」の重要性が,指摘されてきた.共感覚的現象は,実際に触れていなくても,触覚的状態(硬さ)を見るという,異なる知覚様式の相互影響とは異なる現象である.しかし,いずれの現象も,実際の生活においてどのような意味を持つかは,あまり研究されていない.

2.研究の目的

同じものを見ていても,(だまし絵のように)それが多様な見え方を許容することがある.このような多様な見え方を,ヴィトゲンシュタインは「アスペクト」と呼んだ.ヴィトゲンシュタインによれば,異なる視覚対象のうちどちらを見ているかは,例えば,指示表現(「これ」など)と指さしを用いたり,あるいは,その対象を絵に描いたりすることで,示すことができる.しかし,同じ対象の(だまし絵の異なる見え方のような)異なるアスペクトを示すときは,指さそうとしても同じ方向しか指させないし,絵を描こうとしも同じ対象(同じだまし絵)を描くことしかできない.一方,異なる知覚間の相互影響や共感覚も,アスペクトの知覚としてとらえ直すことができる.そこで,どのようなアスペクトの知覚が,実際の日常の活動のなかでどう達成されているか,という課題が見いだせる.この研究では,実際の相互行為をつぶさに観察することを通して,この課題に答えることを目指す.

3.研究の方法

実際の相互行為(子どもの遠足,書道の教授,助産院での触診など)をビデオに収録し,会話分析の方法を用いて,それを分析する.会話分析の方法は,単に観察可能な一般的なパターンを析出することを目指すわけではない.相互行為参加者自身が自分たちの行為や知覚をどう把握しているかを,相互行為の詳細のうちに見いだし,その観察を集積する.それにより,かれら自身による行為・知覚の組織を明らかにすることを目指す.その方法は,じつは,哲学における概念分析の方法(表現がどのように用いられているかを表現同士の結合関係から分析する方法)に近い.概念分析が用いる概念使用者の直観を,いわば実際の相互行為のビデオの観察によって統制するものである,本研究は,会話分析の研究であるとともに,哲学の研究でもある.

4. 研究成果

ここでは,(1)同じ対象をどのように異なるやり方で見るか,(2)見え方のうちに,視覚以外の知覚様式のアスペクトをどのように見るか,(3)複数の知覚様式がどのようなまとまりとして把握されているか,の 3点について,研究期間中に得られた知見を紹介する.

(1) 多様な見え方「細かく見ることをする」やり方がある。例えば、顔を対象に近づけるなどが、その一つである。ここでは、とくに相手の身体に視線を固定しながら、同じ語句を繰り返すという振舞いについて分析する。「細かく見ること」は、対象に関するより詳細な情報を得ることを目的になされると、考えがちである。しかし、ここでは、細かく見ることは、むしろ特定活動において特定行為を行なうことだということを示したい。以下の事例は、地域の子どもの遠足における、河原での火起こしの場面である。この場面を仕切っている船田(${
m FD}$)は、火の起こった焚火に炭を置くよう、子ども(「三上君」 ${
m CH}$)に教示する(01、06 行目)。しかし、子どもは、その焚火を通り過ぎて、まだ火の起こっていないほうの焚火へと向かう(07 行目)。

(1) [川遊び]

- 01 FD: は:::い,炭:: こっち: のっけて:: 自分のぶ:ん.
- 02 (0.6)
- 03 FD: は::い.
- 04 (0.8)
- 05 TK: よし::
- 06 FD: は:::N この上にのっけてくださ::N. |
 - fd: -->> 火を見る ----->|

```
07
       |(1.2)|
       |火をとおりすぎる
  ch:
      |視線が ch を追う .
  fd:
      三上|君
08 TK:
         |ch (右のほう)を見る
  tk:
09 CH:
10 FD:
      あ |>こっち こっち こっ[|ち-<|
11 CH:
                             [ ] 6
  fd:
         |火を指差す.
                                  |最初に fd のほうを ,
  ch:
                                   次に火のほうを向く.
                   図 1
12 FD:→ | [>燃えてるとこ [燃えて る | とこ<
                   [ここ置いて(h|h)
13 TK:→ |[( )
  tk: |ch を見ながら
       指さしを始める.
  ch:
                                                      図 1
```

子どもが通り過ぎたとき,子どもの背面から,船田は「こっち」を 3 回繰り返す(10 行目).「こっち」の繰り返しについて,3 つのことが言えるだろう.第 1 に,繰り返すということ自体が,有標的(普通ではない)やり方である.第 2 に,船田は,「こっち」の繰り返しとともに,火を指差すが,子どもには,「こっち」がどこを指すかは見えない.だから,「こっち」を聞いたとき,子どもは,まず船田を振り向き,船田が見ている焚火へと目を向ける.指示表現「こっち」は,注意喚起として働いている.第 3 に,この繰り返しは,子ども歩みと同期している.実際,子どもが船田のほうを振り向くと同時に,船田は繰り返しをやめている(10 行目).

子どもが振り返ると,船田は,今度は,「こっち」を,記述的な表現(「燃えているとこ」)に変えて,再び,同じ表現を繰り返す(12 行目).これについても,3 つのことが言えるだろう.第 1 に,再び有標的なやり方が用いられている.第 2 に,その繰り返しは,再び子どもの歩みと同期している.子どもが火に向かってかがむと(すなわち,目標の焚火への接近の終了が明確となる時点で),船田は,繰り返しをやめる.第 3 に,この記述的表現(「燃えてるとこ」)は,子どもが,間違って向かおうとした焚火(まだ十分に火が起きていない焚火)に対して,目標の(正しい)焚火を対照化するとともに,船田自らがいま行なっていること,すなわち,訂正指示の理由説明(つまり,炭を置くのは,燃えているほうであって,まだ燃えてないほうではない,と説明)を組み込んでいる.

同じ語句の繰り返しが子どもの歩みと同期されることにより,子どもの動きを細かく見ることが達成される.つまり,船田は,単に子どもの動きを見ているだけでない.むしろ,子どもの歩みの瞬時ごとの進行を見ている.子どもが,目標の焚火のほうを振り向いたとき,もう一人の大人である武尾(TK)が,同時に,炭を置く場所の指示を行なう(「()ここ置いて」13 行目).この同じタイミングで行なわれる武尾の教示は,船田の教示と,次の点で対照的である.第1 に,単語の繰り返しという形をとっていない.1 つの完結した文で,しかも,指図に典型的な,「~して」という形式により組み立てられている.完結した文を用いることにより,(「ここ」という指示詞が用いられることで,環境への依存性は高まっているものの)子どもの振舞いへの依存性の低い教示となっている.第 2 に,末尾に笑い(hh)を含ませている.すなわち,子どもの失敗が笑いの対象として拾い上げられている.

船田と武尾の,それぞれ 12 行目と 13 行目は,子どもが,間違った方向に行こうとしていたのを(船田の「こっち」の繰り返しに反応して)中断し,向きを変えた直後に出現する.言いかえれば,その出現位置は,子どもが自ら,訂正の開始を行なった位置である.このような位置における教示には,次の 2 つの対照的な代替肢がある.(a)子どもが開始した訂正を完遂することの指図,もしくは,(b)子どもが始めた訂正を子ども自身がそのまま進めていくことの支持,の 2 つである.前者を行なっているが武尾だとしたら,後者を行なっているが船田だと言える.船田の単語だけの繰り返しは,子どもの歩みの進行に合わせて続けて産出されることで,子どもの歩みを,むしろ,ガイドしている.

船田と武尾はともに子どもの動きを見ているが,その見え方(どの細かさで見えているか)が異なっている.その見え方はの違いは,両者の教示行為の違いを構成するのものであること,このことが,以上よりわかるだろう.(以上,Nishizaka, 2022より)

(2) 視覚を超えた見ること 書道は視覚芸術である.鑑賞者は,紙の上に書かれた文字を見る.しかし,実は,紙上に書き出された視覚対象に鑑賞者は,書く行為の痕跡だけではなく,書く行

為そのもの(どのような筆遣いで書かれたか)を同時に見ている.このような,そこにはすでにない行為(書くこと)を視覚的に把握することは,書道の教授において,むしろ利用されている.このことを,次の断片により明らかにしよう.以下の断片は,書道の師匠が生徒が持参した作品を並べて,講評しているところである.

(2) [書道]

10

(23.3)

図 2 |かたく持って: | |持ったまま: |こう |やっちゃう |から |筆を持つ格好を │ |その手を前 |その手を振る -----師匠: する -----> に突き出す 師匠: |上を向く--> |下を向く 02 > rね.< ¬ | 生徒: しん:ん」=はい. 師匠: ---->| 04 師匠: ここで .h 力が はいり すぎ 」ちゃっ 「て. 05 しはい 06 (.) 07 師匠: ·h この |力が こっち- こっちまで ずっと 師匠: |右手人差し指を文字の一部に押し当て 図解[1] ゆっくりとなぞる -----> ┌しないと. 08 力が (.)<u>来</u>る ように 09 生徒: 山太い.

師匠は、最初(01~05 行目),作品の修正を要する部分を指摘する.次いで(07~08 行目),それと対照させて、そこをどう修正するべきかの教示を行なう.最初の指摘に際して、師匠は、手をあたかも筆を握っているかのようにかまえ、「かたく持っ」た状態を、いわば実演する(01行目).そのまま「こう」という指示表現とともに、筆遣いの実現を行なう(01 行目).そのさい、「かたく」という、否定的評価を含意する表現と、「ちゃう」という、悪しき結果が引き起こされたという含意をもつ言い方を伴うことにより、修正されるべき部分の指摘がなされていることがわかる・重要なことは次の点だ・手を用いた実演は、書かれた文字に近接され、それをなぞる形で行なわれている.その手の動きと、現に紙のうえに見える文字とが視覚的に関連付けられることで、書かれた文字が、その実演された書き方の結果として再構造化されるとともに、実演された書き方のほうも、書かれた文字の見え方の一側面(アスペクト)として構造化される・後半の修正の教示において、師匠は、こんどは正しい書き方の実演を、書かれた文字(「像」)

仮干の修正の教示において、前匠は、こんとは正しい書き方の美演を、書かれた文字(「像」)の一部に指を押し当てながら行なう。確かに、ここに実演された正しい書き方は、目の前の文字の一側面(アスペクト)ではない。しかし、それでも、(単に筆遣いそのものであるだけでなく)あるべき文字の現われ方の一部として、指の動きは構造化されている(図解[1])。とくに興味深いのは、07~08 行目の教示の構成である。前半の指摘においては、「こうやっちゃう」(01 行目)という、明確に生徒自身の行為を表わす言い方、あるいは「力が入りすぎちゃって」(04 行目)という生徒の身体の側に生じていることを表わす言い方が用いられている。それに対して、後半の教示においては、「力がこっちまで来る」と、紙上の現れる状態を表現する言い方が用いられている(「こっち」が紙の一部を指すことに注意)。このように、あるべき筆遣いも、視覚的な現われの一側面として提示されている。

単に、修正するべき筆遣いを言葉で説明するのではなく、文字の一部として見せることは、生徒に何が悪いかを思い起こさせるのに、とくに有効だろう(以上、Nishizaka、2020a より、)また、師匠の教示には、しばしば(「余韻が残る」や「筆をつる」というような)比喩的な表現が用いられる。その理由を、研究分担者の山田圭一は次のように述べている。「それは、教えられる技術が高度になればなるほどそれは目の前で観察される対象の個々の要素によって対処できるものではなく、その対象がもつ全体の特徴を端的に把握する必要が生じるからである。そしてその全体的特徴を表現するためには似た特徴をもつ別の何かに訴えざるをえなくなり、これこそが比喩が要請される所以である。というのも、比喩とはまさにそれ自身では理解が困難なもの(たとえば、「人生」)をより理解しやすいともの(たとえば、「旅」)との類似性のもとに記述する(「人生とは旅である」)ことにほかならないからである」(山田、2023).

書かれた文字の,書くプロセスにかかわる(非視覚的)アスペクトを視覚的に見せること(文字をなぞりながら書き方の実演を行なう,あるいは比喩を用いる,など)は,教授のための有効な手段であるだけでない.それは,そのように見ることそのことの教授でもあり,特定の「わざ」を共有するコミュニティの一員として生徒を社会化するための手段であるとも言えよう.

(3) 異なる知覚様式の統合 私たちが普通に暮らすとき,一つの知覚様式だけで物に出会うことは,むしろまれである.複数の知覚様式が活動にどうかかわり何を達成するのかを,一つの事例で示しておこう.以下は,助産院における触診である.妊婦が,自分の脇腹に触れながら,胎児の足の位置の変化を訴える(1 行目).

(3) 「妊婦健診]

01 妊 婦: ><u>だ</u>んだん さ<u>が</u>ってきて< この「へん<u>に:</u>

03 助産師: <u>ん</u>::ん. 「°'んのね°. .hh |形 ¬ が=

04 妊 婦: 「これ あし です よ|ね.」

助産師: 」妊婦の腹部に両手で触れる

05 助産師: =これ |頭: -:.

助産師: 児頭を手で押す

06 妊 婦: L°ん°

図 3 図 4

07 助産師: |↓背中:: |お尻::.

助産師: |児背を押す |胎児の臀部を押す

((5 行省略))

13 助産師: {.hh/(0.6)} で ><u>ほ</u>ら< あ<u>し</u>. h °<u>ね</u>°.





01 行目の妊婦の訴えは,単なる報告ではなく,「潜在的問題」(骨盤位「逆子]の可能性など) の提示と聞くことができるし,助産師は,実際にそう聞いているように見える.それに対して, 言及された足の位置の変化が正常なものであることを助産師は実演的に示していく(3 行目以 降). 助産師は「形が」と切り出す(03 行目). この「形が」は,文法的には主節を作っている が,それに対する述部は出現しない.それは,あくまでも,胎児の形を示すための,相互行為的 なスペースを作るためのものである.続いて助産師は,「これ[が]x」という(それ自体文法的 に完結した文の)形式を用いて,胎児の3つの主要部位の名を挙げながら,順次それに触れて いく(5~7 行目).2 の点に注意したい.第1に,妊婦も助産師も妊婦の腹部に視線を向けてい る(図3,4).ここから,助産師は,胎児の3つの主要な部位の位置を,妊婦の腹部の上に示す ことで,妊婦の腹部の表面に胎児の「形」をいわば写像していると,まずは言えるだろう.言い 換えれば,まずは,胎児の形を視覚的に示していると言える.しかし,第2に,助産師は,妊婦 の腹部に触れているだけではなく,腹部の特定箇所を両手で押している.つまり,助産師は,妊 婦に対して,胎児の主要部位の位置を視覚的に示しているだけではなく,自らその部位を触覚的 に感じていることを示している.また妊婦自身も,腹部の皮膚上に外側から助産師の手による圧 迫を感じているし,かつ腹部の内側から胎児の主要部位による圧迫を感じているだろう.このよ うに,単に「形」を写像して見せるだけではなく,確かにそこに主要部位があることを(助産師 自身が感じていることを)視覚的かつ触覚的に示すことが,妊婦の潜在的問題に対する対処とし て重要である.

最後に足の位置が,正常な胎位に位置づけられている(13 行目). 視覚と触覚は,潜在的問題への対処という活動において特定のやり方で統合され,胎位の正常性を示すという具体的行為を構成していることが,この事例から見てとれよう.(以上,Nishizaka, 2020bより)

(4) まとめ 本研究は、複様式知覚が、私たちが日々実際に営む相互行為のなかで、どのように達成され、あるいは何を達成しているのかについて、体系的に考察した最初の経験的研究である、現象学者たち(M. メル=ポンティ、G. ベーメ、B. ヴァルデンフェルスら)が主張しているように、私たちの知覚は、それぞれ独立の知覚様式がまずあって、後からそれが統合されて世界が経験されるわけではない(そういう意味で、上の(3)で「統合」という言い方をしたのは正確ではない).私たちの知覚は、まずは複様式的に世界を(ベーメの表現では、まずは「雰囲気」を)とらえる、本研究は、経験的研究として、このことと真摯に向かいあうための第一歩である、

このような経験的研究の蓄積は、例えば、教育や教示の場面において、より効率的な学習を促すかもしれない、しかし、もっと重要なことは次の点にある、私たちは、人を知覚するとき、まずは人として端的に把握している、最初に言葉を聞き振舞いを見て、そこから、その人を人として判断しているわけではない、このことが持ちうる倫理的帰結をきちんと考えることが、次の課題となるだろう、

引用文献

Nishizaka, A. 2020a. Appearance and action. ROLSI, 53(2).

Nishizaka, A. 2020b. Multi-sensory perception during palpation in Japanese midwifery practice. Social Interaction, 3(1).

Nishizaka, A. 2022. The granularity of seeing in interaction. *JOP*, 190. 山田圭一, 2023.「レッスンのなかで見るということ」『実践の論理を描く』.

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件(うち査読付論文 12件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件)

1 . 著者名 山田圭一	4.巻
	·
2.論文標題	5 . 発行年
レッスンのなかで見るということ	2023年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
実践の論理を描く 相互行為のなかの知識・身体・こころ(小宮友根・黒嶋智美編)	238-271
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
早野薫	1
2.論文標題 <i>版</i> 即に対する2つ(N. h. x. の広答	5 . 発行年 2023年
質問に対する2つ(以上)の応答	2023年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
実践の論理を描く 相互行為のなかの知識・身体・こころ(小宮友根・黒嶋智美編)	24-40
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名 荒野侑甫	4.巻
2 . 論文標題	5.発行年
同一性と身体性	2023年
	6.最初と最後の頁
実践の論理を描く 相互行為のなかの知識・身体・こころ(小宮友根・黒嶋智美編)	194-211
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
	49
2 於文極暗	
2 . 論文標題 悲しみを見るとはどのようなことか ウィトゲンシュタインの直接知覚説の検討	5.発行年
悲しみを見るとはどのようなことか ウィトゲンシュタインの直接知覚説の検討	5 . 発行年 2022年
悲しみを見るとはどのようなことか ウィトゲンシュタインの直接知覚説の検討 3.雑誌名	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
悲しみを見るとはどのようなことか ウィトゲンシュタインの直接知覚説の検討	5 . 発行年 2022年
悲しみを見るとはどのようなことか ウィトゲンシュタインの直接知覚説の検討 3.雑誌名 哲学論叢	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 1-11
悲しみを見るとはどのようなことか ウィトゲンシュタインの直接知覚説の検討 3.雑誌名 哲学論叢 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 1-11 査読の有無
悲しみを見るとはどのようなことか ウィトゲンシュタインの直接知覚説の検討 3.雑誌名 哲学論叢	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 1-11
悲しみを見るとはどのようなことか ウィトゲンシュタインの直接知覚説の検討 3.雑誌名 哲学論叢 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 1-11 査読の有無

1.著者名	4 . 巻
山田圭一	1185
HH-L	
A A A 1970	- 70/
2 . 論文標題	5.発行年
意味は体験されるのか 『哲学探究』第一部と第二部の違いを考える	2022年
2 1544 67	6 BW B# 6 F
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
思想	104-119
	1
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
つ ファブラス このはなべ 人間の ファブランスの 田梨	
1.著者名	4.巻
鬼界彰夫・野矢茂樹・古田徹也・山田圭一	1185
2017年7人。 對人及個一百四個也一口田主	1100
2 . 論文標題	5.発行年
討議 ウィトゲンシュタインを読むとはどういうことか	2022年
13 日然 ノコーテン ノユノコン でかいしてはく ファラーにん	2022 *+
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
思想	5-34
ישיאטי	0-04
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1. 著者名	4.巻
Nishizaka Aug	190
Nishizaka Aug	190
Nishizaka Aug	190
Nishizaka Aug 2.論文標題	5.発行年
Nishizaka Aug	190
Nishizaka Aug 2 . 論文標題 The granularity of seeing in interaction	190 5.発行年 2022年
Nishizaka Aug 2 . 論文標題 The granularity of seeing in interaction	190 5.発行年 2022年
Nishizaka Aug 2 . 論文標題 The granularity of seeing in interaction 3 . 雑誌名	190 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction	190 5.発行年 2022年
Nishizaka Aug 2 . 論文標題 The granularity of seeing in interaction 3 . 雑誌名	190 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics	190 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無
2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 -
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 -
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 73(1)
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音 2.論文標題	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 73(1) 5.発行年
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 73(1)
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音 2.論文標題	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 73(1) 5.発行年
2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音 2.論文標題 絵を描いて見せることの会話分析	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 73(1) 5.発行年 2022年
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音 2.論文標題 絵を描いて見せることの会話分析 3.雑誌名	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 73(1) 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁
2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音 2.論文標題 絵を描いて見せることの会話分析	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 73(1) 5.発行年 2022年
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音 2.論文標題 絵を描いて見せることの会話分析 3.雑誌名	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 73(1) 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音 2.論文標題 絵を描いて見せることの会話分析 3.雑誌名	190 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 73(1) 5.発行年 2022年 6.最初と最後の頁
Nishizaka Aug2.論文標題 The granularity of seeing in interaction3.雑誌名 Journal of Pragmatics掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016オープンアクセスオープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難1.著者名 鈴木南音2.論文標題 絵を描いて見せることの会話分析3.雑誌名 社会学評論	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 73(1) 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 19-36
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音 2.論文標題 絵を描いて見せることの会話分析 3.雑誌名 社会学評論 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 73(1) 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 19-36
Nishizaka Aug2.論文標題 The granularity of seeing in interaction3.雑誌名 Journal of Pragmatics掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016オープンアクセスオープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難1.著者名 鈴木南音2.論文標題 絵を描いて見せることの会話分析3.雑誌名 社会学評論	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 73(1) 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 19-36
Rishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音 2.論文標題 絵を描いて見せることの会話分析 3.雑誌名 社会学評論 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 73(1) 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 19-36
Nishizaka Aug 2.論文標題 The granularity of seeing in interaction 3.雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 鈴木南音 2.論文標題 絵を描いて見せることの会話分析 3.雑誌名 社会学評論 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 73(1) 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 19-36
Rishizaka Aug 2 . 論文標題 The granularity of seeing in interaction 3 . 雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 鈴木南音 2 . 論文標題 絵を描いて見せることの会話分析 3 . 雑誌名 社会学評論 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 73(1) 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 19-36
Nishizaka Aug 2 . 論文標題 The granularity of seeing in interaction 3 . 雑誌名 Journal of Pragmatics 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pragma.2021.12.016 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 鈴木南音 2 . 論文標題 絵を描いて見せることの会話分析 3 . 雑誌名 社会学評論 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 24~40 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 73(1) 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 19-36

1.著者名	4 . 巻
鈴木南音	6(3)
2 . 論文標題	5.発行年
アスペクトの転換と凝結 舞台制作場面の相互行為におけるアスペクト知覚の会話分析	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
フィルカル	248 ~ 267
	210 201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
Nishizaka Aug	172
2.論文標題	5.発行年
Partitioning a population in agreement and disagreement	2021年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Journal of Pragmatics	225 ~ 238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
10.1016/j.pragma.2020.11.015	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
I . 看有右 Nishizaka Aug	4.含 3
2 . 論文標題	5.発行年
Multi-Sensory Perception during Palpation in Japanese Midwifery Practice	2020年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
Social Interaction. Video-Based Studies of Human Sociality	-
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
均乗以前人のDUT (デンタルオフシェクトinkが上) 10.7146/si.v3i1.120256	重読の有無 有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	
	T
1.著者名 Nishizaka, Aug	4.巻 23(6)
2. 論文標題	5 . 発行年
Seeing and Knowing in Interaction: Two Distinct Resources for Action Construction	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Discourse Studies [採択済]	-
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

1.著者名 山田圭一・池田喬・佐藤暁	4 344
山出圭一・池出喬・佐滕暁	4.巻
	5(2)
2.論文標題	5 . 発行年
哲学対話:言葉による言葉の吟味としての	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
フィルカル	6-45
2	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
<i>(</i> 4.0	***
オープンアクセス	国際共著
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
山田圭一	41
2.論文標題	5 . 発行年
社会科学の方法論について哲学は何を語りうるのか・ウィンチのウィトゲンシュタインの解釈の検討を通	2020年
じて・	2020-
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
人文公共学研究論集(千葉大学)	131-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4.巻
Aug Nishizaka	'
2	F 38/-/-
2 . 論文標題	5.発行年
Postscript: Thing and space	2019年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
3.雑誌名 Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice	6 . 最初と最後の頁 285-294
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice	285-294
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	285-294 査読の有無
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice	285-294
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	285-294 査読の有無 無
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス	285-294 査読の有無
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	285-294 査読の有無 無
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	285-294 査読の有無 無 国際共著
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	285-294 査読の有無 無 国際共著 -
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	285-294 査読の有無 無 国際共著
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	285-294 査読の有無 無 国際共著 -
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka	285-294 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 53
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題	285-294
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka	285-294 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 53
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Appearance and Action: Sequential Organization of Instructions in Japanese Calligraphy Lessons	285-294
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Appearance and Action: Sequential Organization of Instructions in Japanese Calligraphy Lessons 3 . 雑誌名	285-294 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 53 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Appearance and Action: Sequential Organization of Instructions in Japanese Calligraphy Lessons	285-294
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Appearance and Action: Sequential Organization of Instructions in Japanese Calligraphy Lessons 3 . 雑誌名	285-294 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 53 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
Bennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Appearance and Action: Sequential Organization of Instructions in Japanese Calligraphy Lessons 3 . 雑誌名 Research on Language and Social Interaction	285-294 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 53 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 未定
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Appearance and Action: Sequential Organization of Instructions in Japanese Calligraphy Lessons 3 . 雑誌名 Research on Language and Social Interaction	285-294
Bennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Appearance and Action: Sequential Organization of Instructions in Japanese Calligraphy Lessons 3 . 雑誌名 Research on Language and Social Interaction	285-294 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 53 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 未定
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Appearance and Action: Sequential Organization of Instructions in Japanese Calligraphy Lessons 3 . 雑誌名 Research on Language and Social Interaction 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/08351813.2020.1739428	285-294
Dennis Day and Johaness Wagner (eds.), Objects, Bodies and Work Practice 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Appearance and Action: Sequential Organization of Instructions in Japanese Calligraphy Lessons 3 . 雑誌名 Research on Language and Social Interaction	285-294

2 . 論文標題		
2. 論文標題 会話分析トレーニング・セッション 3. 融話名 日本語子 6. 無別と最後の百 日本語子 7. 世界の101 (デジタルオブジェクト識別子) 次し 7. 著名名 Aug Nishizaka 1. 著名名 Aug Nishizaka 1. 著名名 Aug Nishizaka 1. 書名名 Aug Nishizaka 1. 書名名 A. Gealte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments 3. 雑誌名 A. Gealte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments A. Cealte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments A. Cealte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments T. 著名名 A. Cealte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments A. Cealte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments T. 著名名 A. Cealte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments T. 表名名 A. Cealte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments T. 表名名 A. Cealte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments T. 表名名 A. Cealte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments T. 表名名 A. Cealte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments T. 表名名 T. T	1.著者名	4 . 巻
会話分析トレーニング・セッション 2019年 3. 韓誌名 日本語字 おープンアクセス コ際共著 - コアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 4. 巻 Aug Nishizaka 2. 論文標題 Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 3. 韓基名 Aug Nishizaka 2. 論文標題 Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 3. 韓基名 Aug Nishizaka 2. 論文程題 Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 3. 韓基名 Aug Nishizaka 4. 巻 1. 著名名 山田主 2. 論文程題 音声の学習におけるアスペクト知彙の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 3. 韓基名 山田主 2. 論文程題 音声の学習におけるアスペクト知彙の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 3. 韓基名 山田主 4. 巻 49 40 41 4. 巻 40 4. 巻		
会話分析トレーニング・セッション 2019年 3. 韓誌名 日本語字 おープンアクセス コ際共著 - コアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 4. 巻 Aug Nishizaka 2. 論文標題 Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 3. 韓基名 Aug Nishizaka 2. 論文標題 Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 3. 韓基名 Aug Nishizaka 2. 論文程題 Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 3. 韓基名 Aug Nishizaka 4. 巻 1. 著名名 山田主 2. 論文程題 音声の学習におけるアスペクト知彙の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 3. 韓基名 山田主 2. 論文程題 音声の学習におけるアスペクト知彙の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 3. 韓基名 山田主 4. 巻 49 40 41 4. 巻 40 4. 巻	0 *A	F 3%/= /T
3 計誌名 日本語学		
日本語学 46-58 掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)	会話分析トレーニング・セッション	2019年
日本語学 46-58 掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)		c = = = = = = = = = = = = = = = = = = =
展議論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 ・ 著名名 Aug Nishizaka 2 ・ 論文標題 Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 3 ・ 競話名 A. Cekaite & L. Mondada (Eds.), Touching Moments # 定	** *** * *	
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	日本語字	46-56
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##		
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 著名名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 3 . 辨誌名 A. Cekalte & L. Mondada (Eds.), Touching Moments E		
1 著名名		***
1 ・著名名 Aug Nishizaka 4 ・巻 Aug Nishizaka 5 ・ 競行年 Ourload Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 7 ・ 競行年 2020年 7 ・ 競打を取る。 6 ・最初と最後の頁 未定 おも、Cekalite & L. Mondada (Eds.), Touching Moments	オープンアクセス	国際共著
Aug Nishizaka 1 2 . 論文理題 Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 5 . 発行年 2020年 3 . Miki6名 A. Cekalite & L. Mondada (Eds.), Touching Moments 6 . 最初と最後の頁 未定 Japanese Midwifery Practices 2 . 最初と最後の頁 未定 Japanese Midwifery Practices 6 . 最初と最後の頁 4 . 登 47 Japanese Midwifery Practices 6 . 最初と最後の頁 4 . 登 4 . 2 . 論文課題 5 . 発行年 2019年 5 . 発行年 2019年 5 . 是有名 山田圭一 2 . 論文課題 5 . 是有年 2019年 6 . 最初と最後の頁 4 . 5 . 是有年 2019年 7 . 2019年 7 . 2019年 8 . 2019年 8 . 2019年 9 . 201	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
Aug Nishizaka 1 2 . 論文理題 Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 5 . 発行年 2020年 3 . Miki6名 A. Cekalite & L. Mondada (Eds.), Touching Moments 6 . 最初と最後の頁 未定 Japanese Midwifery Practices 2 . 最初と最後の頁 未定 Japanese Midwifery Practices 6 . 最初と最後の頁 4 . 登 47 Japanese Midwifery Practices 6 . 最初と最後の頁 4 . 登 4 . 2 . 論文課題 5 . 発行年 2019年 5 . 発行年 2019年 5 . 是有名 山田圭一 2 . 論文課題 5 . 是有年 2019年 6 . 最初と最後の頁 4 . 5 . 是有年 2019年 7 . 2019年 7 . 2019年 8 . 2019年 8 . 2019年 9 . 201		
2 論文標題	1.著者名	4 . 巻
Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 2020年 3 . 機能名 A. Cekaite & L. Mondada (Eds.), Touching Moments 6 . 最初と最後の頁 未定 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 49 2 . 論文標題 言葉の学習におけるアスペクト知覚の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 人文科学研究(千葉大学文学部編) 6 . 最初と最後の頁 51-69 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S03862097-49-P51 童読の有無 無 オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 47 2 . 論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味。への懐疑論者か らの応答 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 6 . 最初と最後の頁 47-55 掲載論次のDOI (デジタルオプジェクト諷別子) 10. 4288/kisoron. 47. 1.47 童読の有無 有 10. 4288/kisoron. 47. 1.47 電読の有無 有	Aug Nishizaka	1
Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices 2020年 3 . 機能名 A. Cekaite & L. Mondada (Eds.), Touching Moments 6 . 最初と最後の頁 未定 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 49 2 . 論文標題 言葉の学習におけるアスペクト知覚の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 人文科学研究(千葉大学文学部編) 6 . 最初と最後の頁 51-69 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S03862097-49-P51 童読の有無 無 オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 47 2 . 論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味。への懐疑論者か らの応答 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 6 . 最初と最後の頁 47-55 掲載論次のDOI (デジタルオプジェクト諷別子) 10. 4288/kisoron. 47. 1.47 童読の有無 有 10. 4288/kisoron. 47. 1.47 電読の有無 有		
3 . 雑誌名 A. Cekaite & L. Mondada (Eds.), Touching Moments		
A. Cekaite & L. Mondada (Eds.), Touching Moments 未定	Guided Touch: Sequential Organization of Feeling a Fetus at Japanese Midwifery Practices	2020年
A. Cekaite & L. Mondada (Eds.), Touching Moments 未定	2 2 株社タ	6 早知と早後の百
掲載論文のD01(デジタルオブジェクト識別子)		
# オープンアクセス 国際共著 - 1 ・ 著名名 山田圭一 4 ・ 巻 49	A. Genatte & L. Wolldada (Eds.), Touching Wollietts	不 足
# オープンアクセス 国際共著 - 1 ・ 著名名 山田圭一 4 ・ 巻 49		
# オープンアクセス 国際共著 - 1 ・ 著名名 山田圭一 4 ・ 巻 49	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 4 . 巻 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 2 . 論文標題 言葉の学習におけるアスペクト知覚の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 人文科学研究(千葉大学文学部編) 6 . 最初と最後の頁 51-69 根載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10 . 20776/S03862097-49-P51 面際共著 オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 47 2 . 論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者からの応答 5 . 発行年 2019年 2019年 6 . 最初と最後の頁 47-55 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10 . 4288/ki soron . 47 . 1_47 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 4 . 巻 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 2 . 論文標題 言葉の学習におけるアスペクト知覚の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 人文科学研究(千葉大学文学部編) 6 . 最初と最後の頁 51-69 根載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10 . 20776/S03862097-49-P51 面際共著 オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 47 2 . 論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者からの応答 5 . 発行年 2019年 2019年 6 . 最初と最後の頁 47-55 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10 . 4288/ki soron . 47 . 1_47 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著		
1 . 著者名 山田圭一 2 . 論文標題 言葉の学習におけるアスペクト知覚の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 人文科学研究(千葉大学文学部編) 6 . 最初と最後の頁 51-69 51-69 重読の有無 10.20776/S03862097-49-P51 無別子)	オープンアクセス	国際共著
山田圭一 49 2 . 論文標題 言葉の学習におけるアスペクト知覚の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 人文科学研究(千葉大学文学部編) 6 . 最初と最後の頁 51-69 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S03862097-49-P51 重読の有無 無 オープンアクセス 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 47 2 . 論文標題 眺望から人称を排除することができるのか らの応答 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 5 . 発行年 2019年 月報論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47 査読の有無 47-55 日際共著 1 . 登稿の有無 47-57ンアクセス	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
山田圭一 49 2 . 論文標題 言葉の学習におけるアスペクト知覚の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 人文科学研究(千葉大学文学部編) 6 . 最初と最後の頁 51-69 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S03862097-49-P51 重読の有無 無 オープンアクセス 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 47 2 . 論文標題 眺望から人称を排除することができるのか らの応答 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 5 . 発行年 2019年 月報論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47 査読の有無 47-55 日際共著 1 . 登稿の有無 47-57ンアクセス		
2 . 論文標題		
言葉の学習におけるアスペクト知覚の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 2019年 3 . 雑誌名 人文科学研究(千葉大学文学部編) 6 . 最初と最後の頁 51-69 掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子) 10.20776/S03862097-49-P51 査読の有無 無 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 4 . 巻 47 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 47 2 . 論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者からの応答 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 6 . 最初と最後の頁 47-55 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	山田圭一	49
言葉の学習におけるアスペクト知覚の役割 ウィトゲンシュタインの直示的教示の考察を通じて 2019年 3 . 雑誌名 人文科学研究(千葉大学文学部編) 6 . 最初と最後の頁 51-69 掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子) 10.20776/S03862097-49-P51 査読の有無 無 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 4 . 巻 47 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 47 2 . 論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者からの応答 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 6 . 最初と最後の頁 47-55 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	2 全个大师 日	c
3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 51-69 人文科学研究(千葉大学文学部編) 査読の有無 無 10.20776/S03862097-49-P51 国際共著 無 オープンアクセス 国際共著 - 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 47 2 . 論文標題		
人文科学研究(千葉大学文学部編) 51-69 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S03862097-49-P51 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 山田圭一 4.巻 47 2.論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者からの応答 5.発行年 2019年 3.雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 6.最初と最後の頁 47-55 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	日来の子自にのけるアスペクドが見の収割 ジューアノンフェティンの直が的教がの与宗を通して	2019-
人文科学研究(千葉大学文学部編) 51-69 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S03862097-49-P51 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 山田圭一 4.巻 47 2.論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者からの応答 5.発行年 2019年 3.雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 6.最初と最後の頁 47-55 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
10.20776/S03862097-49-P51無オープンアクセス国際共著1.著者名 山田圭一4.巻 472.論文標題 眺望から人称を排除することができるのか らの応答野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者か 5の応答3.雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編)6.最初と最後の頁 47-55掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47査読の有無 有オープンアクセス国際共著		
10.20776/S03862097-49-P51無オープンアクセス国際共著1.著者名 山田圭一4.巻 472.論文標題 眺望から人称を排除することができるのか らの応答野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者か 5の応答3.雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編)6.最初と最後の頁 47-55掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47査読の有無 有オープンアクセス国際共著		
本の		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 47 2 . 論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者からの応答 5 . 発行年2019年 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 6 . 最初と最後の頁47-55 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	10.20776/S03862097-49-P51	無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 山田圭一 4 . 巻 47 2 . 論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者からの応答 5 . 発行年2019年 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 6 . 最初と最後の頁47-55 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	ナーゴンマクセフ	国際共革
1 . 著者名 山田圭一 2 . 論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者か 5 . 発行年 2019年 5 の応答 3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47 有 本ープンアクセス 国際共著		四际 共 石
山田圭一472.論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者からの応答5.発行年2019年 2019年3.雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編)6.最初と最後の頁47-55掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47査読の有無有オープンアクセス国際共著	カーノファフ ヒヘ Clはない、 X はカーフファフ ヒヘか 凶無	-
山田圭一472.論文標題 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者からの応答5.発行年2019年 2019年3.雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編)6.最初と最後の頁47-55掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47査読の有無有オープンアクセス国際共著	1	Δ
2. 論文標題 5.発行年 眺望から人称を排除することができるのか 野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者からの応答 5.発行年2019年 3.雑誌名 6.最初と最後の頁47-55 科学基礎論研究(科学基礎論学会編) 47-55 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無有 10.4288/kisoron.47.1_47 有		_
眺望から人称を排除することができるのか らの応答野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者か らの応答2019年3.雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編)6.最初と最後の頁 47-55掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47査読の有無 有オープンアクセス国際共著	чн-	
眺望から人称を排除することができるのか らの応答野矢茂樹『心という難問 空間・身体・意味』への懐疑論者か らの応答2019年3.雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編)6.最初と最後の頁 47-55掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47査読の有無 有オープンアクセス国際共著	2 . 論文標題	5.発行年
らの応答6 . 最初と最後の頁3 . 雑誌名 科学基礎論研究(科学基礎論学会編)6 . 最初と最後の頁 47-55掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47査読の有無 有オープンアクセス国際共著		
科学基礎論研究(科学基礎論学会編)47-55掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.4288/kisoron.47.1_47査読の有無 有オープンアクセス国際共著	らの応答	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 10.4288/kisoron.47.1_47 有 オープンアクセス 国際共著	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
10.4288/kisoron.47.1_47 有 オープンアクセス 国際共著	科学基礎論研究(科学基礎論学会編)	47-55
10.4288/kisoron.47.1_47 有 オープンアクセス 国際共著		
10.4288/kisoron.47.1_47 有 オープンアクセス 国際共著	担却なかのカスレイプンドカルナインド・カー神のマン	本はのナ畑
オープンアクセス		
	10.4288/kisoron.47.1_47	有
	ナーゴンマクセフ	国際共革
カーノファク ピス Cはない、 又はカーフファク ピスか困難 -		四际 共 石
	オーノノアソ ヒス Cはない、 又はオーノノアソセスか 困難	-

. ***	. 24
1 . 著者名	4 . 巻
Yusuke Arano	22
2.論文標題	5 . 発行年
Doing reflecting: Embodied solitary confirmation of instructed enactment	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Discourse Studies	未定
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1177/1461445620906037	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	4 . 巻
西阪仰	1
2.論文標題	5 . 発行年
会話分析はどこへ向かうのか	2018年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実編『会話分析の広がり』	253-279
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
19型曲人のDOT (ナンタルオンシェクド画が子) なし	重読の有無無無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
1 . 著者名 山田圭一	4. 巻 46
2.論文標題	5.発行年
言葉の意味の変化をもたらす体験とはどのようなものか ウィトゲンシュタインの比喩的表現の考察をも とに	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
科学基礎論研究	1-9
	**** o + #
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.4288/kisoron.46.1_1	査読の有無 有
10.4200/K13010I1.40.1_1	
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名	4.巻
山田圭一	4
2.論文標題	5.発行年
人は人ならざるものと恋愛することができるのか 「シェイプ・オブ・ウォーター」と「エクス・マキナ」を題材に	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
フィルカル	136-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	│ │ 査読の有無
均載mm又のDOT(デンタルオフシェクトmin) なし	直硫の有無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
	I

1.著者名 山田圭一	4 . 巻
	1
444	
2.論文標題	5.発行年
人はAIと恋愛することができるのか	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
吉川孝・横地徳広・池田喬編著、『映画で考える生命環境倫理学』	87-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
早野薫	20
2 . 論文標題	5.発行年
レヴィンソンが牽引するインタラクション研究	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
語用論研究	160-167
TO SHALL A SHALL AND	
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
	同數共萃
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
. #46	1 4 24
1 . 著者名	4 . 巻
早野薫	1
2 *A-b-4# IIX	F 38/- F
2 . 論文標題	5.発行年
認識的テリトリー 知識・経験の区分と会話の組織	2018年
2 145+47	(見知に見後の百
3.維誌名	6.最初と最後の頁
平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実編『会話分析の広がり』	193-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	
おし	無
40	***
	国際共著
オープンアクセス	
オープンアクセス	国际代名
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	- 4 . 巻
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka	- 4.巻 1
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題	- 4.巻 1 5.発行年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka	- 4.巻 1
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Aspect-seeing in the interactional organization of activities	- 4.巻 1 5.発行年 2018年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Aspect-seeing in the interactional organization of activities 3 . 雑誌名	- 4 . 巻 1 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Aspect-seeing in the interactional organization of activities	- 4.巻 1 5.発行年 2018年
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Aspect-seeing in the interactional organization of activities 3 . 雑誌名 Donald Favareau (ed.), Co-Operative Engagements in Intertweined Semiosis: Essays in Honor of	- 4 . 巻 1 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Aspect-seeing in the interactional organization of activities 3 . 雑誌名 Donald Favareau (ed.), Co-Operative Engagements in Intertweined Semiosis: Essays in Honor of Chales Goodwin	- 4 . 巻 1 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 345~354
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Aspect-seeing in the interactional organization of activities 3 . 雑誌名 Donald Favareau (ed.), Co-Operative Engagements in Intertweined Semiosis: Essays in Honor of Chales Goodwin	- 4 . 巻 1 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 345~354
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Aspect-seeing in the interactional organization of activities 3 . 雑誌名 Donald Favareau (ed.), Co-Operative Engagements in Intertweined Semiosis: Essays in Honor of Chales Goodwin	- 4 . 巻 1 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 345~354
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Aspect-seeing in the interactional organization of activities 3 . 雑誌名 Donald Favareau (ed.), Co-Operative Engagements in Intertweined Semiosis: Essays in Honor of Chales Goodwin	- 4 . 巻 1 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 345~354
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 Aug Nishizaka 2 . 論文標題 Aspect-seeing in the interactional organization of activities 3 . 雑誌名 Donald Favareau (ed.), Co-Operative Engagements in Intertweined Semiosis: Essays in Honor of Chales Goodwin	- 4 . 巻 1 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 345~354 査読の有無

4 . 巻
2
5 . 発行年
2017年
6.最初と最後の頁
229 ~ 258
査読の有無
有
国際共著
-

│ 1.著者名	4 . 巻
Kaoru Hayano	2
2.論文標題	5 . 発行年
When (not) to claim epistemic independence: The use of ne and yone in Japanese conversation	2017年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
East Asian Pragmatics	163 ~ 193
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
10.1558/eap.34740	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

〔学会発表〕 計23件(うち招待講演 7件/うち国際学会 7件)

1.発表者名

Aug Nishizaka

2 . 発表標題

Experiencing Space: Two Uses of Japanese Proximal Spatial Deictic Expressions

3 . 学会等名

The Centre for Advanced Studies in Language & Communication (the University of York) (招待講演)

4.発表年

2023年

1.発表者名

Aug Nishizaka, Masafumi Sunaga, Kotaro Sambe

2 . 発表標題

Ideas Distributed among Multiple Voices: Discussions in Protests against the Construction of Narita International Airport

3.学会等名

American Sociological Association

4 . 発表年

2022年

1.発表者名
Aug Nishizaka
••
0 7V + 1X DX
2.発表標題
Seeing and touching in interaction: Doing "inspecting" and action construction
a Al-A Mr. Fr
3.学会等名
The importance of touch during the time of covid: An international symposium(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年
2022年
1.発表者名
Aug Nishizaka
AUG INTSTITZAKA
2 . 発表標題
Doing "inspecting" in interaction: Seeing the physiognomy of an object
being inspecting in interaction, occuring the physiogholis of all object
3 . 学会等名
Lecture at "AdvancingMultimodal Conversation Analysis" Summer School (University of Basel)(招待講演)
Control at Advancing matthmodal conversation Analysis commence school (office at Advancing matthmodal conversation Analysis
A DV-tr
4.発表年
2022年
1
1. 発表者名
1.発表者名 山田圭一
山田圭一
山田圭一 2 . 発表標題
山田圭一
山田圭一 2 . 発表標題
山田圭一 2 . 発表標題
山田圭一 2 . 発表標題
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名
山田圭一 2.発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3.学会等名 日本倫理学会 4.発表年 2022年 1.発表者名 西阪 仰
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題
山田圭一 2.発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3.学会等名 日本倫理学会 4.発表年 2022年 1.発表者名 西阪 仰
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題 相互行為における「見ること」と「触れること」 「詳細を調べること」と行為の構成
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題 相互行為における「見ること」と「触れること」 「詳細を調べること」と行為の構成 3 . 学会等名
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題 相互行為における「見ること」と「触れること」 「詳細を調べること」と行為の構成
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題 相互行為における「見ること」と「触れること」 「詳細を調べること」と行為の構成 3 . 学会等名
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題 相互行為における「見ること」と「触れること」 「詳細を調べること」と行為の構成 3 . 学会等名 人工知能学会: 言語・音声理解と対話処理研究会(招待講演)
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題 相互行為における「見ること」と「触れること」 「詳細を調べること」と行為の構成 3 . 学会等名 人工知能学会: 言語・音声理解と対話処理研究会(招待講演) 4 . 発表年
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題 相互行為における「見ること」と「触れること」 「詳細を調べること」と行為の構成 3 . 学会等名 人工知能学会: 言語・音声理解と対話処理研究会(招待講演)
山田圭一 2 . 発表標題 「公共」的な見方とは何か 学習指導要領を哲学的に問い直す 3 . 学会等名 日本倫理学会 4 . 発表年 2022年 1 . 発表者名 西阪 仰 2 . 発表標題 相互行為における「見ること」と「触れること」 「詳細を調べること」と行為の構成 3 . 学会等名 人工知能学会: 言語・音声理解と対話処理研究会(招待講演) 4 . 発表年

1 . 発表者名
Nishizaka, Aug
2.発表標題
The Ascribability of Action in Interaction: Revisiting the Status/Stance Distinction
3.学会等名
American Sociological Association
4 . 発表年
2020年
1.発表者名
山田圭一
2. 改丰福度
2.発表標題
悲しみを見るとはどのようなことか ウィトゲンシュタインの直接知覚説の検討
3 . 学会等名
第68回ウィトゲンシュタイン研究会
300D 71 T 7 2 2 3 7 T 2 W/LC
a Wart
4 . 発表年
2020年
1.発表者名
早野薫
T의 조
- 70
2. 発表標題
形式と相互行為機能の適合: 極性質問に対する応答の拡張に着目して
3.学会等名
日本英語学会第38回大会
4 . 発表年
2020年
1.発表者名
早野薫
2 . 発表標題
相互行為における認識性
3.学会等名
日本語用論学会第23回大会(招待講演)
4 . 発表年
2020年
·

1.発表者名
Hayano, Kaoru
2 . 発表標題
Reporting for and about a child: Addressing a child in talk between nursery teachers and parents
inspecting to the access a contract reaction in the contract reaction in the contract reaction and particular
3.学会等名
Center for Language, Interaction and Culture 定例研究発表会(招待講演)
4. 発表年
2021年
1.発表者名
Arano, Yusuke
2.発表標題
Revisiting ownership of language
3.学会等名
4th CAN-Asia Symposium on L2 Interaction(国際学会)
4 . 発表年
2021年
1.発表者名
Aug Nishizaka
2.発表標題
Partitioning the Participation Population Space in Reaching a Mutual Agreement
3.学会等名
American Sociological Association
4.発表年
2019年
20134
1. 発表者名
Tomone Komiya & Aug Nishizaka
2 . 発表標題
Accomplishing the Intelligibility of the Distinctiveness of Activity
,
3.学会等名
American Sociological Association
, Name
4.発表年
2019年

1. 発表者名
Aug Nishizaka
2 . 光衣标题 The differentially ascribable nature of seeing: Projects and visual perception
The differentially ascribable nature of seeing. Projects and visual perception
Conference of the International Institute for Ethnomethodology and Conversation Analysis (国際学会)
controlled of the medical controlled to the cont
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
Aug Nishizaka
2.発表標題
The ascribability of action in interaction: Revisiting the status/stance distinction
2 WARE
3.学会等名
American Sociological Association
4 · 光衣牛 2020年
2020年
1.発表者名
шш±—
2.発表標題
感覚は言語によってどこまで伝えることができるのか ウィトゲンシュタインの私的言語論を手がかりに
3 . 学会等名
第3回 人間知・脳・AIセミナー
4.発表年
2019年
1.発表者名
Kaoru Hayano
Off-stage negotiation of who is going to serve: Resources for embodying requests and offers
Sir stage heget at ton or and to going to solve. Resources for embody my requests and offers
3.学会等名
第16回国際語用論学会(国際学会)
4.発表年
2019年

1.発表者名
Aug Nishizaka
2 . 発表標題
Perception that matters in interaction
3.学会等名
International Conference on Conversation Analysis 2018(招待講演)(国際学会)
4.発表年
4 . 免表年 2018年
20.0
1.発表者名
Aug Nishizaka
2.発表標題
Mixed perceptions in instructional settings: seeing under the aspect of proprioception relevant to the current activity
3.学会等名
International Conference on Conversation Analysis 2018(国際学会)
4.発表年
2018年
1.発表者名
Aug Nishizaka
2. 発表標題 Social bow it is done: The cognetial organization of instructional actions in a language calligraphy lesson
Seeing how it is done: The sequential organization of instructional actions in a Japanese calligraphy lesson
2 24 A Mr C2
3 . 学会等名 EARLI SIG 14 Conference(国際学会)
EANET OTO 17 WITGIGIOO (
4.発表年
2018年
1
1 . 発表者名 山田圭一
чнт
2 . 発表標題
2 . 光衣伝題 人の悲しみを見るとはいかなることか ウィトゲンシュタインの直接知覚説
3.学会等名
日本現象学会
4 . 発表年
2018年

1.発表者名 山田圭一						
2 . 発表標題 ゲシュタルト的まとまりは認識論的役割を果たしうるのか						
	3 . 学会等名 科学基礎論学会例会					
	4 . 発表年 2017年					
〔図書〕 計0件						
	産業財産権 〕 その他 〕					
西阪	その他) 反仰研究室 p://www.augnishizaka.com/					
6	. 研究組織					
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考			
	山田 圭一	千葉大学・大学院人文科学研究院・教授				
研究分担者						
者	(Yamada Keiichi)					
	(30535828)	(12501) 日本女子大学,文学颂,准教授				
		(12501) 日本女子大学・文学部・准教授				
	(30535828)					
	(30535828) 早野 薫					
研究分担者	(30535828) 早野 薫 (Hayano Kaoru) (20647143) 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	日本女子大学・文学部・准教授	備考			
研究分担者	(30535828) 早野 薫 (Hayano Kaoru) (20647143) 氏名 (ローマ字氏名)	日本女子大学・文学部・准教授 (32670) 所属研究機関・部局・職	備考			
研究分担者	(30535828) 早野 薫 (Hayano Kaoru) (20647143) 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	日本女子大学・文学部・准教授 (32670) 所属研究機関・部局・職	備考			

6.研究組織(つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鈴木 南音		

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------